

平成 26 年度学群入学式 式辞

新入生の皆さん、筑波大学への入学おめでとうございます。教職員一同、皆さんを心より歓迎し、お祝い申し上げます。また、ご両親をはじめとするご家族の皆様、関係者の方々にも心よりお祝いを申し上げます。

大学は、とても面白いところです。面白さの質が違います。

大学は、凄いところです。人が知らないことを見つけ、人ができなかったことを実現する場所だからです。

大学は、難しいところです。高校とは違います。社会人になるところだからです。

大学は、豊かなところです。個性を持った先生、先輩、そして友人と出会うからです。

私達は、あなたがたを待っていました。まず、筑波大学のことを紹介しましょう。

昨年の 10 月 1 日に筑波大学は、開学 40 周年を迎えました。筑波大学は、1973 年（昭和 48 年）に当時の東京教育大学をベースに「新構想大学」として開学し、東京からこのつくばの地に移ってきました。本学は我が国で最も新しい国立の総合大学であると同時に、1872 年（明治 5 年）に我が国最初の高等教育機関である「師範学校」として発足し、筑波大学に変わるまでの 101 年という長い伝統と実績を誇る大学でもあります。師範学校から東京師範学校として 14 年、高等師範学校として 16 年、東京高等師範学校、東京文理科大学を含めて東京教育大学として 71 年の歴史を持っています。

大学の変革と再生が求められている今日ですが、それを先取りするように、私たちは 40 年前に大学に対する新しい考え方を取り入れて、多くの期待や夢をこめて、自然あふれるつくばの地に移ってきました。本学は、それまでの日本の大学の在り方をしっかりと考察し、怯むことなく大学の役割を追求するために理想を掲げて努力を続けてきました。そのための基本的な認識は、「従来の大学は、狭い専門領域に閉じこもり、教育・研究の両面にわたって停滞し、固定化を招き、現実の社会からも遊離しがちであった」と建学の理念で述べられています。この認識は決して過去のものではありません。そして、このような状況を打破するために、柔軟な教育と研究を追求できる組織づくりを実現してきました。従来の観念に捉われず、本学はあらゆる面で「開かれた大学」となることを目指し、次代が求める新しい大学の仕組みを確立する「不断の改革」を先導してきました。この 40 年の間に本学が挑戦してきた「新構想」の多くは、我が国の他の多くの大学に波及してきました。

大学は面白いところです。ニューヨークはお金さえ持っていれば面白いところだとよく言われます。ビジネスや金融であれ、芸術、音楽、映画や舞台であれ、博物館や図書館であれ、レジャーやエンターテインメントであれ、世界中から最先端の人間活動とそれを発信する個性豊かな人が集まってきています。大学には、蓄えられた知とそれをさらに先導する人達で溢れています。では大学では何を持っていけばよいのでしょうか？それは夢だと私は考えます。偉くなりたい、立派な研究者や作家になりたい、社会の役にたちたいといった漠然とした夢、金メダルをとりたい、エアーカーを走らせたい、経済システムを革新したいといった少し具体的な夢、生きるという意味を明らかにしたい、古代社会や言語の成り立ちを明らかにしたい、病気を直したいなどの理想を追う夢など、どのような夢でも良いのです。是非、それを声に出して先生や先輩、あるいは友人に告げてみてください。きっと、有益なサゼスションや豊かなアイデアが皆さんの周りに集まってきます。

夢を実現するために、未来を想像してみてください。社会はグローバル化し、激動しています。従前に比較すると、見通しの利かない社会です。夢を抱き、本学で学び暮らす皆さんには、是非とも新しい価値を生み出すような想像力を培っていただきたいと願っています。未来を拓く視点を、本学では分かりやすく **IMAGINE THE FUTURE.** というキャッチフレーズで表現しています。ヒトと地球にとっての豊かな未来を想像できなければ、未来を創り出すことはできま

せん。アラン・ケイは「未来を予測する最善の方法は、それを創り出すことだ」と述べています。次の時代がどうなるか、どうあるべきかを大胆に想像して、新時代を開拓できる力を蓄えてください。そして、常に夢に向かって努力を続けてください。

大学は凄いところです。大学受験の用意をする中で、数々の練習問題に挑戦してきたことでしょう。数多くの難問にも出会ったことと思います。しかし、それらの問題には解答が用意されていたはずで、大学で学ぶ問題の中には、分かり易い解答がない場合や予め解答が用意されていない場合も多々あります。なぜなら、大学での学問の意味は体系的な知識の習得を基盤に、これまでに解かれていない問題に挑戦することにあります。その問題が解けた時には、解いた君たち自身がその分野の最先端にいることとなります。誇らしさ、満足感、充実感を心の底から感じるはずで、勿論、科学の世界は日進月歩ですので、今日の研究成果は次の研究目標を生み、今日の最先端はやがてその位置を次の研究成果に譲ることもあるかもしれません。我々学徒は、常に謙虚で、真摯な態度で科学に向かわなければなりません。

さらに、我々は今大変な問題に直面しています。科学と技術の進歩は、社会に大きな恩恵を与えてきました。一方で数多くの問題をも発生させてきました。エネルギー・資源に関する問題、産業・経済の活性化の問題、少子高齢化の問題を含む人口構成の問題などの種々の問題です。しかし、これらの問題を解決するのも科学と技術です。このような問題を解決するために、我々はあらゆる分野で、新たな解決策やこれまで以上の成長を生み出そうと努力をしています。さらに、これらは地球規模の課題です。問題を地球規模で共有し、解決に向けた活路を地球市民として見出していかなければなりません。我々は既存の学問分野や物理的な、たとえば国境などという境界を越えて情報や想いを共有し、連携することが大切です。

大学では難しいこともあるでしょう。皆さんのとなりにいる人は、昨日まで見知らぬ人でした。日本各地から、また世界の様々な場所から、集まってきた人達です。実際、本学の留学生数は国立大学の中ではトップクラスです。また、多種多様な希望を持って集まってきた人達です。本学は、他に類を見ない幅広い学問分野を持つ総合大学であり、専門分野を深化させながら、学際・融合的な教育研究を積極的に展開し、数々の顕著な研究成果を上げるとともに国際的研究・教育拠点としての高い評価を得ています。ノーベル賞受賞者の朝永振一郎博士、江崎玲於奈博士、白川英樹博士の3氏は本学関係者です。一方、オリンピックやパラリンピックでは本学の多くの教員や学生・生徒が、金メダルを含めた数多くの実績を残しています。つまり、本学は国際色豊かにして、多様な価値観を尊重する大学として発展してきているのです。

多様な価値観を認めることは、時として厄介なことです。特に、日本人はお互いの共通基盤を自然な形で身につけてしまっています。まず認識すべきは、国と国あるいは人と人はすべて互いに「同じ」ではないということです。「異なっている」ということを意識することです。「異なっている」が故に、個々のアイデンティティの確立が必要であり、同時にコミュニケーションが重要なのです。「同じ」ということと「理解する」ということは別です。お互いの尊敬と理解が強い友情や類まれな協働作業を生み出す絆に繋がるのだと思います。逆に言えば、「人や社会は、皆互いに異なる」ということが、他者や他の社会を理解する前提だと考えられます。

「異なる」ということは、多様性を生み出すためにも重要なポイントです。私は、これまで生命科学分野で研究をすすめてきました。多様性は生命の存続と進化にとって最も基本的な要件の一つです。

大学はとても豊かなところです。皆さんは多くの夢と期待に胸を膨らませて、筑波大学キャンパスでの大学生活が始まります。キャンパスは広大な自然に囲まれ、都会の喧騒とは無縁です。また研究学園都市つくばは国際色豊かなサイエンスの街です。皆さんは、勉学に励み、課外活動を満喫し、多くの友情に囲まれることでしょう。本学は研究大学院大学として、我が国の11のResearch Universitiesで構成されるRU11の一つであり、先端的な研究を推進しています。そういった研究に携わっている教員は、優れた研究者であると同時に経験豊かな教育者で

もあります。このような先生方やその先生方から薫陶を受けた先輩からは、幅広い知識・教養と高い専門知識・技術などを学ぶことでしょう。教職員は本学の特性を誇りとし、使命感を持って、皆さんを心から応援したいと考えています。日本の大学では有数の課外活動団体・サークルを含む学生生活活動を通じては、心身を鍛えることだけではなく、コミュニケーションの重要性に気付くはずです。コミュニケーションを成立させるためには、自立性ととともに相手への思いやりや共感、チームワークが大切です。これから出会う友人達とは、切磋琢磨しながら、時には激励や応援を送り合うことになるのでしょう。その友人達は生涯のライバルであり、仲間です。

大学での活動は、大学の中だけにはとどまりません。大学を取り巻く地域、日本の各地、そして世界が活動する場所です。先に述べたとおり、我々が挑戦するのは地球規模の課題です。本学では開学当初から、国籍や言語の垣根を越えて学びあう学生と教員が知の共同体であり、ローマ字 **TSUKUBA** で表すことのほうがふさわしいグローバル・コミュニティです。キャンパスと街にはさまざまなことばと文化が行き交い、居ながらにして世界を感じることができます。本学は10ヶ所の海外オフィスを有し、また55の国と地域及び国際連合大学と合計225件の交流協定を結んでおり、海外での学修機会も多く、またそのための経済的支援も充実しています。グローバル社会では、研究にもビジネスにも国境はありません。卒業後の皆さんを待っているのは、言語や文化の異なる多様な人々が力を合わせたり、ぶつかり合う社会です。本学はその時のための鍛錬を支援していきます。

最後になりますが、皆さんの夢を、筑波大学キャンパスを起点として、是非、実現してもらいたいと願っています。皆さんが、本学で幅広い学識と強靱な自立心を身に付け、**TSUKUBA** から世界に飛び出し、ヒトと地球の未来を切り拓いていってくれるための努力をすることを期待して、私の式辞といたします。

平成26年4月7日

筑波大学長 永田 恭介